

## 皇嘉門

この門の後方に家光の霊廟があり、その遺骨が埋葬されています。皇嘉門という名称は天皇自らが授けたもので、京都御所の十二対の門の一つと同じ呼び名です。これについては、徳川家と皇室の親密な関係を表していると言えます。皇嘉門は「龍宮様式」で建立されています。そのため、この門は「龍宮門」とも呼ばれます。龍宮様式は、中国の明王朝（1368年-1644年）の建築に影響されたもので、当時の日本人にとっては異国の雰囲気を感じるものでした。家光が辰（干支で龍の意味）の年に誕生したことから、この龍宮様式が採用されたと推察されます。アーチ状の天井の上には天女（天使に類似した女性の霊的存在）が描かれており、大猷院の参拝客に神聖なる空間に入りを告げます。東照宮に対して控えめとされる大猷院境内にあって、日光山に数ある門の中でも極めて特徴的な意匠となっています。